平成２２年４月２５日
「新しい公共」オープンフォーラム
植木貞雄氏資料

太尾地区防犯連絡協議会（神奈川県）

大型防犯活動拠点を中心とした地域ぐるみによる防犯活動の展開

１．横浜市港北区の取り組みについて

「犯罪のない安全で安心して住めるまち」を作るため、地域住民、行政、警察が一体となって防犯活動を推進することを目的として、平成１７年７月に町内会、自治会、商店街、学校ＰＴＡなど区内７０余団体による「港北ＡＡＡ（トリプルエー、安全で安心な明日を）作戦会議」を立ち上げ、現在活動中である。

２．太尾地区防犯連絡協議会の概要について

当太尾地区は、東急大倉山駅を中心に大倉山梅林や市の大倉山記念館があり、ハマの文化の発信地として、東には港北区役所を真近かに、南には新横浜駅やヨコハマアリーナがあり、横浜の新都心としてますます発展を遂げている地区である。

１）設立の経緯について

港北区の中でもかねてから、特に犯罪が多発していた太尾地区では、「港北ＡＡＡ作戦会議」設立を受けて、平成１８年３月に地元の地区連合町会及び傘下各団体、地区社会福祉協議会、商店街、学校、ＰＴＡ、消防団等関係機関・団体３１団体が集まり、「太尾地区防犯連絡協議会」を設立した。

２）防犯活動拠点について

平成１８年３月に横浜市の所有地である保育園の跡地を借用し、太尾地区連合町会の自己資金を中心に、横浜市の安全管理局の助成金を利用して、区内初の防犯活動の拠点となる「太尾防犯拠点センター」（収容人員７０名、土地面積４００平方メートル、建物面積８１平方メートル）を開設した。

３）構成員数について
約１７０名　（構成団体 太尾地区連合町会 加入６，５７０世帯約１３，７８０人）

３．活動内容について

１）太尾防犯拠点センターでは、構成する会員が２、３名程度が、午前１０時から午後６時まで常駐し、地域住民から防犯相談を始めとした各種相談を受け付けている。

ア．港北警察署地域安全課や県安全・安心きちづくり推進課のくらし安全指導員と連携し、高齢者を対象とした振り込め詐欺や引ったくり防止の防犯講座や子供たちに対する誘拐防止教室など、地区の犯罪発生状況をみて、随時開催して入る。

イ．「子ども１１０番の家」ネットワーク委員会の拠点であり、有事の駆け込みに対応している。

ウ．地域の防犯力を高め、情報の交換や発信の場として、誰でもふらりと寄れる地域住民の憩いの場として、また「太尾支え合いまつり」のイベント会場として、大勢の親子連れが参加して木工教室や地元の野菜や花の販売など、大人と子どものふれあいの場、交流の場として開放して地域の結束力の向上を図っている。

エ．災害時の救援ボランティアの集合本部として、建物の提供も視野に入っている。

２）子どもの安全確保に向けた取り組みについて

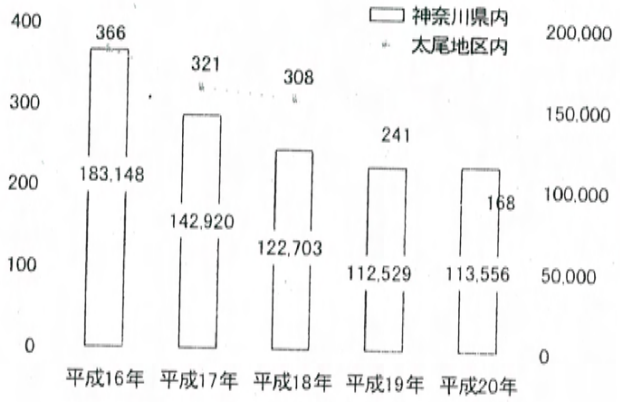
ア．大綱小学校、太尾小学校の学援隊を結成して、子どもの登下校時通学路の安全の見守り活動とあいさつ運動も実施している。

イ．子どもたちが安心して遊べる環境を作るため、青色回転灯装備車１台を運用し、地区内の公園や広場、団地などを中心とした徒歩による会員のパトロールも実施している。

ウ．地域安全防犯マップを子どもたちの眼や、見守り活動やパトロールを実施する会員などの情報を元に地域安全マップを作成し、小学校、中学校を通じて児童、生徒、保護者に配布したほか、各町内会、自治会の会員にも配布している。

エ．港北消防団太尾班所有のポンプ積載車による防災パトロールと併せて、防犯パトロールも実施している。

４．防犯活動の成果について

太尾地区における刑法犯罪認知件数は、「太尾地区防犯連絡協議会」を設立した平成１８年以降は、特に減少傾向が顕著になっている。

特に平成２０年は、神奈川県内の認知件数が平成１９年より増加しているが、太尾地区ではマイナス７３件、３０．３パーセントと大幅に減少している。